

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター
-------------------------

## ② 施設・事業所情報

名称：小雀みどり保育園	種別：児童分野 認可保育園	
代表者氏名：川邊 初美	定員（利用人数）：60（63）名	
所在地：〒244-0004 横浜市戸塚区小雀町876-4		
TEL：045-851-4699	ホームページ <a href="http://kosuzume.midorikko.net/">http://kosuzume.midorikko.net/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 1966年09月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：特定非営利活動法人みどり会		
職員数	常勤職員：11名	非常勤職員：13名
専門職員	園長 1名	調理員 1名
	保育士 18名	
	栄養士 2名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室（7）	園庭、ホール、事務室、給食室、沐浴室、調乳室、乳児・幼児トイレ、休憩室など

## ③ 理念・基本方針

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>* 未来を担う子どもたちが、集団の中で生き生きと保育されることによって、発達かなえられるようにしていくこと。</li> <li>* 保護者と保育者がしっかり手をつなぎ互いに力を出し合い、支え合って人間として成長していける保育所づくりをめざすこと。</li> <li>* 保護者が安心して働き続けることができるよう、支えていくこと。</li> <li>* 保育所を根拠として、地域の子どもたちと保護者、専門家等と協力し合い、地域を知り、住みよい街づくりに参加していくこと。</li> <li>* 理念の実現のため、平和な社会をつくる責任の一端を果たしていくこと。</li> </ul> |
|--|

## ④ 施設・事業所の特徴的な取組

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ しなやかなこころとからだ、ゆたかな情操、仲間とともに生きることも、保護者同士の交流、五感を育て脳を育てて心を豊かに育てることを大切に、保護者と職員が子どもを真ん中に共に育ち合いたいと思っている保育園です。</li> <li>・ 保育の柱として食を大切にしています。素材の味を大切に和食で食材を吟味し、旬のものを献立てに活かしています。おいしく、楽しく、安全に！～食べることは生きること～として食を通して子どもの発達を考えた食事作りをしています。園舎の中央に給食室があり、カウンターをはさんで子どもたちとの会話を大切にしています。</li> <li>・ 園の運営は、職員と保護者が一緒に行います。一年に一度全職員と保護者が出席する総会で、前年度の総括を報告し、その年の方針を決めています。保育園運営は保護者から選ばれた運営委員会が中心となり、職員と保護者は全員、バザー部や文化</li> </ul> |
|---|

部、環境安全部などに所属して、一緒に活動しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年06月08日（契約日） ～ 2022年01月06日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2016年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆子どもたちは生き生きと保育園を楽しんで過ごしています

子どもたちは一年を通して薄着とはだして過ごし、日々の保育の中で身体を動かしながら抵抗力のある体づくりをしています。園庭は2か所あり、どのクラスも思い思いに体を動かし、団子作りから泥んこに発展したり、幼児は「氷鬼」という遊びで友だち同士で「作戦会議だ！」などとチームワーク良く自由に遊んだりしています。時には交じり合うこともあり、全職員が全ての子どもを把握して見守っています。更に幼児クラスは月3回お弁当の日を設け、長距離散歩の日にはお弁当を持参してたっぴりと遊び、季節によってザリガニ、ホタル、野鳥など様々な自然と触れ合っています。給食室を中心にホールと広い廊下や各クラスの押し入れの下の空間など雨天時でも好きに遊ぶことが出来ています。このような保育の中で幼児になると自主的な行動ができるようになっていきます。調査者に話かけ、手を振ってくれた子どもたちは生き生きと保育園生活を楽しんでいる様子でした。子どもの声に耳を傾ける保育士に見守られながら、子どもたちはのびのびと主体的に活動しています。

◆職員は、連携して理念の実現に努めています

園は、乳児だけでなく幼児の月間指導計画にも一人ひとりの子どもの個別の状況を記載しています。毎月の職員会議は全職員が参加して土曜日の午後行われ、その際に各クラスの一人ひとりの子どもの状況が報告され、周知が図られています。気になった時などは、午睡の時間等を使って話し合っ情報共有するようにしています。このように、職員間の連携が図られ、クラス担任だけでなくどの職員も子どもの状況を把握して対応できるようにしています。また、会議では子どもの要望、興味が遊びに繋がっているか、させたいだけでなく、子どもから湧いて出た遊びかなど、職員間で疑問に感じた時に伝えあい、気づきにつなげ、互いが理念の実現により良い保育になるよう努めています。

◆地域の保育園として活動しています

共同保育所開園から55年を経て沢山の卒園生が巣立ち、地域に根付いた保育園として地域と交流を図り、関係機関と連携をして地域の保育園として活動しています。町内会に加入して町内清掃や避難訓練、地域の神社の行事などに参加し、小雀公園「ホタルを守る会」と交流を図り、どんと焼きやホタル放流などに園児も参加しています。また、地域の小学校、幼稚園、保育園、学童と交流を行い、小学校のスクールゾーン会議に参加して、危険箇所改善の要望を出すなど、その時々を要求を協力し合い改善に取り組んでいます。また、保育園行事（ハザーや感謝デーなど）に地域の方を招待したり、隣接する旧園舎を町内会やお年寄りの集まりのために貸し出したりしています。地域に子どもの発達やお友達づくりの悩みを抱えている保護者もいることを把握しており、現在は、コロナ禍で実施できない取組もありますが、育児講座や月1回の「あそぼう会」などを通じて地域子育て支援に力を入れています。

◇改善を求められる点

◆文書類の整備と定期的な見直しが期待されます

全職員で職員会議に参加するなど、職員の意識が高く、経験豊かな理念に基づいた保育を実施しようと努めています。プライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）に配慮した保育を実施していますが、プライバシーの保護に関する園独自の規程が整備されていません。また、虐待等権利侵害やボランティアマニュアルなど一部不備も見受けられます。今後は、文書を整備し、定期的に見直すことを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

地域福祉研究センターの第三者評価を受け丁寧に理念や保育実践をとらえていただきました。

子どもたちや職員、施設を評価するところには疑問を感じていますが、今後も子どもたちひとりひとりを尊重し、人と人が結びつき（保護者、職員、地域の方々、他園の方々など）子どもたちを真ん中に育ちあっていきたいと思えます。

文章や記録として分析を行い、目標やねらいとして明確にし、生かしていくなど、弱い部分も明らかになりました。不十分なところを改善し子どもたちが伸び伸び輝けるあそびや生活環境が実現できるよう努力していきたいと思っています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり